

2025年10月02日発行 会報 第1253号

今週のプログラム

(2025年 10月02日 第1253回例会)

「卓話：私のAIよもやま話」

石田夕子 会員

次週のプログラム

(2025年10月09日 第1254回例会)

「お月見例会」

親睦委員会

第1252回 例会 (2025年 9月25日) の記録

《会長の時間》

水本 徹 会長

朝晩すっかり涼しくなって、ようやく秋を感じるようになってきました。

そして、万博も残すところ一か月を切り、来場者が増えているそうです

しかし、パビリオンはもとより事前入場予約も取れない状態だそうで、地方からのお客様が当日予約の為、早朝より並ぶも結局入場出来ずに帰られた話も聞きました。

万博にあまり興味のない私（1970年の万博で堪能済！）は、友人との話の中で万博よりUSJに行きたいと言ったところ、年齢制限で体験出来ないアトラクションがある事を知らされました。子供の年齢制限は知っていましたが高齢者の年齢制限もあったとは・・・自分の年齢を改めて思い知らされ、ショックで暫く立ち直れそうにありません。



<お客様> なし

<出席報告> 藤田芳浩 S A A補助

会員数 15 名（内出席免除会員 4 名）

本日の出席者数 10 名

（内出席免除会員 1 名・名誉会員 0 名）

本日の出席率 90.9%

<ロータリーソング> 全会員

♪日も風も星も♪

さわやかな朝だ われらはロータリアン

いつもほほえみ いつも元気で

さあ 出掛けよう

日も風も星も ラララ光るよ

《幹事報告》

山本友亮 幹事

回覧いたします。

◆『第 35 回 地区ガバナー杯争奪軟式野球大会』の観戦応援の依頼がきております。

◆「IM 第 2 組 15RC 2025-26 年度 第 1 回会長・幹事会」のご案内

◇日時：2025 年 10 月 3 日（金）受付 17：30～開会 18：00

◇場所：新大阪ワシントンホテルプラザ 2 階「紅梅」の間

◆「2025-26 年度 END POLIO NOW 秋のチャリティ盆踊り」のご案内

及び「協賛・グッズ購入」のお願い 「飲食ブースご出店」の募集

◇日時：2025 年 10 月 19 日（日）10：00～17：00

◇場所：靱公園 東園 〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 1-9

◆「国際ロータリー第 2660 地区 2025-2026 年度 地区大会登録」のお願い

◆「2026-27 年度（次年度）ガバナー公式訪問に関する」ご案内

2025 年 10 月 10 日（金）までにアンケート返信

◆「第 5 回吹田 5 クラブ親睦ゴルフコンペ」 最終のご案内

◆「ロータリーの友」9 月号 推奨記事について

◆ ハイライトよねやま 第 305 号 第 306 号

◆「2025-26 年度年間行事予定表・前期 2025 年 7 月～12 月（改訂版）」

◇ 次週 10 月 2 日は、昼例会になりますのでお間違いないようお願いいたします。

◇ 卓上バナースタンドが破損しましたので、岸上会員様に修理を依頼いたしました。

よろしく願いいたします。

<今後の例会>

10月 第1週 10月2日(木) 「昼例会」

時間：12時開会 場所：江坂ゴルフセンターレストラン
プログラム「卓話：私のAIよもやま話」 石田夕子 会員

第2週 10月9日(木) 「お月見例会」

時間：18時30分開会 場所：KKRホテル

第3週 10月16日(木) 「昼例会」

時間：12時開会 場所：江坂ゴルフセンターレストラン
プログラム「大阪・関西万博の見聞報告と感想について」

第4週 10月23日(木) 「夜例会」

時間：18時30分開会 場所：ル・ジャルダン 江坂
プログラム「Xmas 例会の確認と新年例会開催について意見交換会」

第5週 10月30日(木) 「休会」

《SAA報告》

藤田芳浩 SAA補助

<委員会報告> なし

<スマイルBOX>

※米山記念奨学会

高田会員 コメントなし

※ロータリー財団

藤田会員 9月最終週となりました！！
石田会員 涼しくなってきましたね！
相原会員 コメントなし

※メイプル基金

水島会員 本日、フィジー・ナショナルデー 夕刻レセプションに参加予定です。
相原会員 コメントなし

※ラオス基金

藤田会員 お月見例会 10月9日 皆様宜しく申し上げます！！

※ニコニコ奉仕金

水島会員 ようやく秋の気配！
高尾会員 コメントなし

「今後の奉仕活動について（意見交換会）」

相原会員

不登校に悩む子どもや親のためにできる支援はないか。学校に行けない子どもたちやその家族が安心して社会とのつながりを再構築できる「居場所」子ども教室などの機会を提供する。

高田会員

身近で困っている人がいた時に出来ることがあればしたいと考えていますが、何かをする強い思いには至っていません。何かをするときには一生懸命に頑張ります。

石田会員

札幌医科大学渡邊耕太教授が代表のプロジェクトのご紹介です。渡邊先生は本学整形外科学講座ご出身で、日本のオリンピック帯同医師を務め、特に冬季スポーツのトップアスリートからの信頼も厚い先生として著名な実績を挙げられてきました。臨床面だけでなく、ご献体を使って身体の運動機能を解明するための研究、CSTを通じた若手医師教育、さらに医療従事者のための解剖教育に長年に渡りご尽力されています。渡邊先生のプロジェクト「どこにいてもスポーツを諦めない未来を作りたい」は、都市部、地方、どこに居てもスポーツを楽しめるように、遠隔地医療体制の充実を目指すものです。医療施設の整った都市部からは離れた地方で活動するアスリート、スポーツを楽しむ人たちの健康を支える、「ポータブル超音波診断装置」などの遠隔医療機器と、「遠隔相談システム」を整備し、「医療のほうから現場に向かう」ことを目指す内容です。渡邊先生は、今年度より開設された国立大学系列では日本初となるスポーツ医学部の初代教授を務めておられます。先生は、長年にわたり冬季オリンピックの帯同ドクターとしてご活躍されてきました。フィギュアスケートの浅田真央選手の時代から、スノーボードの藤森由香選手が直前の怪我で現地棄権した際には、本人が納得できるようにコースと一緒に下見されたというエピソードも業界でよく知られています。次回の冬季オリンピックでも、先生が帯同される予定です。

当社も先生の活動に賛同し、YOROI プロテクターの売上の一部を寄付するキャンペーンを来年3月末まで実施する予定です。

プロジェクトの目的と背景

スポーツ中のケガによる断念をなくす： ケガでスポーツを続けられなくなる人々を減らし、誰でも安心してスポーツを楽しめる社会の実現を目指します。

医療アクセスの地域格差解消： 広大な地域では、遠隔医療支援システムを整備することで、現場で即時に医療を提供できる体制を構築します。

アスリートへの質の高い医療提供： 特にジュニアアスリートに対し、均等に質の高い医療サポートを提供できるよう、遠隔医療支援システムとポータブルエコーを導入します。

具体的な取り組み

ポータブルエコーの購入：現場で即座に診断できる超音波画像診断装置を購入し、診断の迅速化と質の向上を図ります。

遠隔通信システムの構築：遠隔コンディショニング支援を行うためのカメラ、PC、ソフトなどを導入し、オンラインでの医療支援を可能にします。

メディカルチェックの実施：予防・早期発見を目的としたメディカルチェックを院内や学外で実施する体制を整えます。

渡邊会員

豊中市社会福祉協議会の事務局長様をお迎えして社会福祉の課題や取り組みについて、お話を伺う予定ですが、奉仕活動の実践を考えるなかで、大きく分けて二つの身近な青少年育成活動を考えています。

1点目は、児童生徒の不登校・登校拒否・ひきこもりが深刻な社会問題となっています。コロナ禍で生活リズムが乱れたり、学校活動が減少したりしたことや、いじめや孤立といった人間関係のトラブルが増加したこと、さらに、現代社会の多様な価値観と画一的な教育システムとのギャップから、学校への適応が困難になる子どもが増えていることが原因として指摘されています。

一方、国内の遺児たちは厳しい進学現状にあり、高校・大学進学を諦めざるえない環境の子どもたちが多くいます。すべての遺児が平等に教育の機会を持てる社会を目指して、遺児や親に障害がある家庭の子どもへの支援です。これらの内容を踏まえて、事務局長様にお話を伺いたいと思います。

2点目は、ロータリークラブ米山奨学金は、日本のロータリークラブ会員からの寄付を財源とし、日本で勉学・研究に励む外国人留学生を支援する民間の奨学金制度ですが、近年、日本における中国人留学生への手厚い支援が大きな話題となっています。特に、2025年3月に報じられた「博士課程留学生への年間最大290万円の支援」は、多くの日本人学生や納税者から疑問の声が上がっています。

日本では多くの学生が奨学金を借りて学業を続けており、卒業後に数百万円の返済に苦しんでいる現状があります。それにもかかわらず、中国人を中心とする外国人留学生には、返済不要の奨学金が支給されるだけでなく、学費免除や生活費補助まで提供されるケースが少なくありません。

「タダで学び、卒業時にお金まで受け取る」という状況が生まれています。一方で、日本人学生は多くの場合、返済義務のある奨学金に頼らざるを得ず、卒業後には何百万もの借金を抱えることとなります。経済的に厳しい家庭の学生が多く存在します。外国人留学生への支援が手厚く、日本人学生への支援は十分とは言えません。

SNS上では、中国人留学生自身が「進学と奨学金の取得は、魚を揚げるのと同じくらい簡単です」と投稿し、卒業式でお金をもらったことを誇らしげに語る場面も見られました。これは、日本の学生にとっては到底理解しがたい状況と言えます。

文部科学省が発表したデータによると、日本には約8万人の中国人留学生が在籍しています（2023年時点）。彼らの多くは、日本政府や各大学が提供する奨学金制度を活用し、ほぼ無償で学業を継続しています。特に問題視されているのは、返済不要の奨学金や生活費支援です。例えば、以下のような支援が提供されています。

- ◆国費外国人留学生制度：学費全額免除＋生活費（月額14万円～17万円）＋渡航費
- ◆地方自治体の奨学金：家賃補助、交通費補助など
- ◆大学独自の支援：学費免除、特別奨学金

これらの制度により、一部の外国人留学生は「タダで学び、卒業時にお金まで受け取る」という状況が生まれています。

そこで、ロータリークラブの社会奉仕活動や自然体験活動を通じて、問題発見能力、リーダーシップ、コミュニケーション能力、自立的な行動力を養い、生涯にわたる「生きる力」を身につけるための青少年育成として、千里メイプルロータリークラブ独自の日本人学生への支援、あるいはインターアクト・ローターアクトなどの支援を考えます。

< 9 月のお誕生日 >

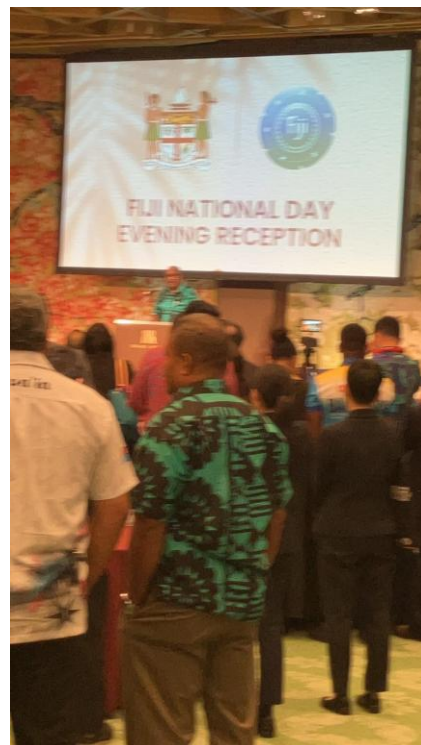


24日 石田夕子 会員



フィジー・ナショナルデー・レセプション報告

(大阪万博 25/9/25)



水本会長

マノア・カミカミザ・フィジー共和国副首相

カレラ様

山本友亮幹事

